

## 「かさま歴史交流館井筒屋」を拠点としたまちづくり

なか やま こう じ\*  
中山 考 司\*

### 1. はじめに

笠間市は、茨城県のほぼ中央に位置し、首都圏から約100km、県都水戸市に隣接している。平成18年3月に1市2町（旧笠間市、旧友部町、旧岩間町）が合併し、新たな笠間市が誕生した。

「かさま歴史交流館井筒屋」がある笠間地区（旧笠間市）は、歴史を生かした観光産業をはじめ、全国でも有数の産地として知られる稲田みかげ石や笠間焼など地場産業による観光・芸術文化のまちとして発展してきた。



写真-1 かさま歴史交流館井筒屋

### 2. 笠間稲荷周辺まちづくり拠点整備事業

旧井筒屋本館は、明治中期に建築され、築後約120年の歴史がある老舗の旅館であった。木造3階建ての雄大な建物は、当時のこの地域の繁栄を象徴していた。近くに日本三大稲荷の一つ笠間稲荷神社があることから、笠間稲荷周辺地区と呼ばれるこの辺りは、昭和50年代頃までは、普段の日でも多くの人が行き交い、賑わいを見せていた。

また、正月の初詣をはじめ、つつじまつり、菊ま

つりなど、年間を通してイベントが開催され、本市の観光の中心を担ってきた。



写真-2 震災時の井筒屋

井筒屋は、古くから参拝客の定宿の一つとしても利用され、笠間稲荷門前町のシンボルとして長年にわたり市民に愛されてきた建物である。平成23年の東日本大震災の影響等により旅館は廃業となり、周辺住民からこの歴史ある木造3階建ての貴重な建物を残してほしいという意見もあり、保存・活用するため笠間市が取得した。当初は、井筒屋再生整備事業として、民間の活用を求め宿泊施設としての再生を試みたが、本館付属の宿泊棟の震災による被害が甚大であり、再利用が困難なことなどの理由から、宿泊施設としての活用を断念し、本館以外は解体す

ることになった。構想を練り直し、かねてより進めてきた笠間稲荷門前通り整備事業（景観に調和した道路の石舗装など：整備延長410m・平成28年完了）に合わせ、周辺一帯の回遊性を向上させる、井筒屋周辺整備計画を策定し、改修工事に着手した。

### 1) 耐震補強改修計画

明治時代に建築された趣のある本館景観の保存を前提に耐震補強改修工事を実施した。木造3階建ての耐震補強の工法については、実施設計の中で、一般財団法人ベターリビングから合格判定を得た内容で工事を行った。

#### (1) 上部構造

建物の外観は、建築当時（明治時代）の姿に復元することを基本に、現存する最も古い写真（昭和初期撮影）を参考とするとともに、柱や梁は、可能な限り既存のまま残すこととした。

一般的に木造建築の耐震補強は、柱や筋交いなどで行われるが、改修後様々な利用目的に対応するため、壁と床（耐力壁をバランスよく配置し、床を構造用合板張りとして水平荷重伝達能力を確保する）で補強する工法を採用し、各階になるべく大きな空間をつくった。



写真-3 昭和初期撮影の写真

#### (2) 基礎構造

耐震診断の地盤調査を行った結果、表層が軟弱な盛り土であることが判明したため、杭打ち基礎により支持力を確保する必要が生じた。耐力壁構面の下部には、剛強な基礎梁を設け、主要な柱の下部に杭を設置した。既存の建物の下へ杭を打つ

よりも、新たな場所へ基礎（杭打ち）を設置し、そこに建物を移動した方が、作業が効率的であり、工事費も抑えられることや建物が道路に直面しており、東日本大震災では、崩落した瓦等が歩道に散乱し、通行を妨げ、危険な状態にあったこともあり、曳き家（建物分約15m）工法を採用することとした。曳き家により生まれた建物の前面スペースには、地場産材である稲田みかげ石を貼り、イベントなどを行うことができる交流広場を設けた。



写真-4 曳き家

### 2) 遊歩道整備計画

井筒屋は、さきに整備した笠間稲荷門前通り（石舗装）の東端に位置しており、石畳道路の延長線上にあることから、周辺地域が一体的に歴史的な風情を感じる景観を創り出している。井筒屋の東側には、笠間城跡及び佐白山、つつじ公園、大石邸跡（大石内蔵助の祖父が住んでいた）、笠間日動美術館などがあり、点在するこれらの観光施設を結び、回遊性を向上させることを目的として、遊歩道の整備を計画している。これにより、笠間稲荷門前通りから井筒屋を抜け、笠間城跡までの歴史・芸術・文化を融合した観光ルートが形成され、中心に位置する井筒屋が、観光客滞留の場となり、重要な観光拠点としての役目を果たすことが期待される。

### 3. 施設の概要

- 名称 かさま歴史交流館井筒屋
- 所在地 笠間市笠間987番地
- 建築物構造 木造3階建



写真-5 菊の装飾



写真-6 笠間稲荷門前通り（石舗装）

○延床面積 482.16㎡

#### 1 F 観光インフォメーション

施設及び観光案内、井筒屋旅館で使用していた神棚、金庫、囲炉裏などを展示。

#### 2 F 歴史展示コーナー

笠間城の歴史資料や模型、市に功績のある偉人の紹介パネルなどを展示。

#### 3 F 会議室1・2

会議室1は、約60名が収容可能な洋室。

会議室2は、約16名が収容可能な和室。

平成30年4月1日にオープンし、同年11月には来館者4万人を達成した。遠方から訪れた、かつての旅館を知る方々は、廃業したことに驚きながらも、利活用されていることを喜び、宿泊した思い出を懐かしく話してくれるので多くの方々に親しまれていたことを改めて感じる。

会議室や交流広場においては、自治会をはじめ商店会や市民団体による会合やイベントなどに頻繁に利用され、市民と観光客の交流の場となっている。

また、昨年秋の「笠間の菊まつり」期間には、建物の2階、3階の欄干と正面の交流広場に菊の装飾を施し、新たなスポットとして、多くの方が訪れた。

## 4. 周辺地域の変化

東日本大震災後、笠間稲荷周辺地区においては、行政による門前通りをみかげ石舗装とする道路改修や井筒屋の改修など、震災復興と合わせ、地区一帯

の魅力と賑わいのあるまちづくりが進められてきた。

一方で、住民活動による活性化に向けた動きとしては、門前通りの沿道に店舗を構える店主が中心となり、門前町にふさわしい街並みづくりや景観・環境維持を意識した商店街の活性化に取り組んでいる。

景観づくりの特徴的な取組みとして、笠間稲荷神社の拝殿や鳥居の色（えんじに近い色）をシンボルカラー「笠間朱色」とし、店舗の外装をはじめ、屋外広告物、ベンチ、プランター、暖簾、のぼり旗などに使用し、沿道景観の統一性を図っている。さらに、自らが取り組むまちづくりのルールとして、笠間朱色の積極的な活用をはじめ、道路活用や店舗づくりのルール、建築物の用途や高さの制限などを「街並みづくりガイドライン」として定めた（建築物の制限については条例化）。

この他にも、石畳道路の清掃など、地域が一体となり、魅力向上と賑わい創出を図っている。

## 5. おわりに

笠間稲荷周辺地区では、街並みを大切にしつつ、地域の活性化に向け、様々な取組みを実施してきた。歴史的な風情を感じさせる街並みの一部としての建物の保存にとどまらず、笠間の歴史や観光情報の発信、市民や観光客の交流など「かさま歴史交流館井筒屋」を拠点とした賑わいあるまちづくりを地域と一体となって展開していきたい。